

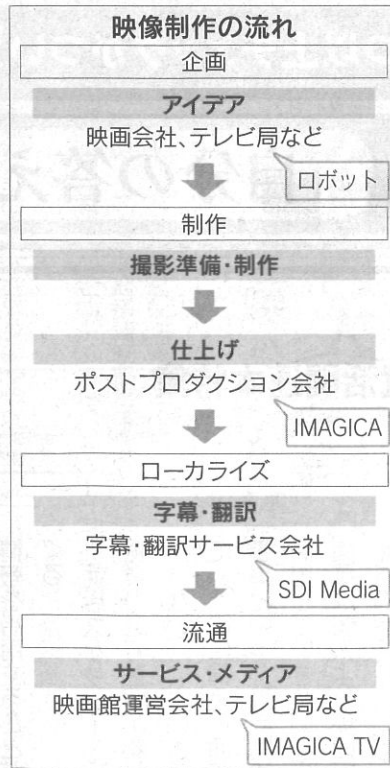
映像コンテンツ 世界へ押し出す

イマジカ、字幕最大手を買



SDIの買収を発表するイマジカ・ロボットホールディングスの塚田社長(左)と副社長(右)。(19日、東京都港区)

イマジカは1935年に映画の都、京都・太秦で創業、映画の現像が源流だ。1953年には、地下に入ること企画か



「コンテンツ輸出のインフラ整備のための投資」。クールジャパン機構の小糸正樹専務執行役員が説明する通り、SDIへの期待は大きい。イマジカロボの売り上げの4割近い金額の投資に踏み切る理由はなにか。ひ

イリビンの3拠点で映像をオンラインで編集するシステムを持つことも魅力となった。時差を利用して24時間体制で編集し、吹き替えや字幕をつけた作品を世界に一斉配信できる。日本企業は現在、映像作品のテープを

SDIのシェンフェル社社長が築いたハリウッド映画界との人脈も武器だ。20世紀フォックス

消費者がより安くコンテンツを楽しむようになる可能性がある。

人脈も武器に

イマジカロボの塚田真人社長は同日の記者会見で「日本の映像コンテンツの海外展開をお手伝いしていきたい」と語った。控えめな言葉が示すとおり、イマジカロボもSDIも本来は「黒子」。ただ、その黒子の重要性が高まっている。いくら作品が素晴らしいでも、鑑賞されなければ意味がない。高い壁だった言語

スカイマークの共同スポンサー

HISなど名乗り

大和証券も

民事再生手続き中の国内航空3位スカイマークの共同スポンサー(航空会社を除く)の募集が19日に期限を迎えた。旅行大手エイチ・アイ・エス(HIS)のほか、オリックス、大和証券グループ、新生銀行が出資を含む支援に名乗りを上げた。日本交通など事業提携の候補を含め、合計20社前後が支援の意向を表明した。スカイマークは各社の支援内容を検討し

したのを機に、沢田氏は経営の一線から退いた。スカイマークの民事再生申請立て後はHISが保有株を売却し、直近の持ち株比率は約1%に低下していた。HISは再びスカイマークの経営に参画することで自社リスクとの相乗効果を狙う。オリックスは自社の航空機リース事業のノウハウ活用を目指す。大和証券グループは投資収益を

狙うとみられる。出資を伴わない事業支援については福山通運や日本交通など運輸業のほか、双日も応募した。IT(情報技術)企業などからも支援表明があったようだ。これらの企業でも条件が合えば出資する可能性がある。

スカイマーク支援を巡ってはすでに投資ファンドのインテグラル(東京・千代田)がスポンサー

契約を締結。共同スポンサーを幅広く募るため、アドバイザーのGCSAウィアンが航空会社、商社など100社超に支援を打診していた。

内外の航空会社はより詳細な支援計画が必要のため、募集期限を28日としている。2月中にスポンサー選別に一定のメドをつけたい意向だが、最終的な選定が3月上旬にずれ込む可能性もある。

介護・医療用ロボットの開発などを手がけるサイバーダインは介護支援ロボットのレンタルを始める。体に装着すると腰のモーターが持ち上げる力を補助し、介護者が腰痛になるのを防ぐ。このほど介護施設など3カ所へ導入、3月から本格的な展開を始める。介護ロボットは開発段階のものを中心だが、いち早く市場に投入し、現場の作業軽減につなげる。

介護者は2・9割の

介護支援ロボットレンタル

サイバーダイン

ロボット装置を、腹部と太もものベルトを通じて腰に装着する。寝たきりの高齢者を車いすへ移す時などに、腰のモーターが動いて持ち上げる力の最大40%を補助する。補助する力は5段階で調節できる。



腰の負担を軽減

介護者が腰痛になるのを防ぐ(千葉県船橋市の特別養護老人ホーム「さわやか苑」)

性能を順次高めるためレンタルのみとし、3年契約の場合で1カ月10万円程度で貸し出す。このほど千葉県の特別養護老人ホームや新潟県の有料老人ホームなどへ計4台貸し出した。建設現場などで働く作業向け支援ロボットと合わせ、2016年3月期に500台以上の利用を目指す。

8割を占めるバックライウエアラブル端末の普及する。パネルの画素ごとトが不要になる。電池がにもつながらそうだ。3月からサンプル出荷。一定期間、画像を記録させることができ、データ伝送時の使用電力も減らせる。

リング・ミルなど既存